

浜坂病院 人間ドッグ助成事業(新規)

令和5年度新規事業として、国民健康保険又は後期高齢者医療制度の被保険者を対象に公立浜坂病院で人間ドッグを受けた費用の半額(上限2万円)が助成される制度ができました。

(現時点での予算は、30名分程度です。)

詳細は、病院又は健康福祉課にお尋ねください。

議員定数削減について

2月12日の春來地区座談会において、議員定数削減が話題に上がりました。

多様な民意の反映のためにはある程度の議員定数があった方がよいと思います。しかし、何より町民の思いが大事です。多くの町民が定数削減を望んでおられるようにも感じています。他の自治体においても削減が行われています。

そういったこともあり、特別委員会では、①迅速な定数2名削減確定し、2年間で最善の議会運営方法について検討すること、②さらなる2名削減については、今の任期中または次の任期中において検討することの決定に向けて、合意形成が図れることを願っています。



照来風景

『座談会』ありがとうございました！

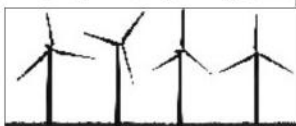
今年2月から、有志の議員が地域に出向く『座談会』に参加させていただき、率直なご意見や励まし、お叱りも頂戴しました。

地域の皆様から心からお礼申し上げます。皆様の生のお声から多くの気づきや学びを得させていただき、『町民にやさしいまち新温泉町』の実現に向けて頑張りたいと思います。今後も、お仲間や集落単位で、お気軽にお声掛けいただけると幸いです。

宜しくお願いいたします。

風力発電プロジェクト

運営会社からの訪問(5/24)を受けました。国の政策も変化していますが、地域の皆様も慎重な対応をお願いいたします。



千曲川決壊で浸水した長沼保育園(長野市)の新園舎開園

4月2日(日)、令和元年の東日本台風による千曲川決壊で浸水した、長野市にある長沼保育園



の新園舎開園式が行われました。被災によりこれまでの園舎は使用ができなくなりましたが、被災直後から近くにある2か所の保育園で代替保育を実施、令和2年4月1日(水)からは、仮設園舎において保育を再開されていたようです。

新園舎は、長沼小学校の敷地内のグラウンド北側に移転新築。被災した従前の園舎の位置よりも400mほど西側に離れることになり、また、長沼小学校の敷地は1mほど盛土がされていることから、浸水害の軽減が見込まれています。新園舎は南面に大きな窓が設置されているため、自然の光が取り入れられ、風通しも良く、明るく開放的な構造になっています。仮設園舎で窮屈な思いをしてきた園児たちが、この新園舎で伸び伸びと元気いっぱい活動し、多くの思い出が刻まれることを願っています。(長野市 hp より)

令和4年度をふり返って 令和4年度も、ご支援くださる方々からたくさんのお力をいただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。皆様のご期待にお応えし、『町民の幸せ』『こどもたちの未来』を実現したいと考えて、精一杯努力してきたつもりです。6年目に入っても、まだまだ、道半ばの面もありますが、粘り強く頑張っていきます。皆様からの忌憚のないご意見、ご指導をお願いいたします。

『こどもの日』に考える事

ゴールデンウィーク、皆様はいかが過ごされましたか？私は、例年通り、畦づくり、代かき、田植えと筋肉痛の10日間でした。先輩方から、「伸びたら目立たなくなるから大丈夫」となぐさめられながら田植えを終え、岸田川の向こう岸の山々を見上げると見渡す限りの新緑が目に入りました。『新緑』『新入生』『新社会人』など、『新』という言葉からは、『未来』『生命力』『可能性』というイメージが浮かびます。

実は私には成人した3人のこどもたちのほかに、もう1人、生後4日でこの世を去った長男がいます。元気な産声をあげて生まれてくれた喜びもつかの間、3日目に容体が急変、白血球の型が一致した私の血液を何度も輸血して回復を祈り続けましたが、4日目に天国に召されました。救ってあげることができなかった幼い命。言葉にならない悔しさが残ります。

今も誕生日が来ると長男の歳を数えている私たち夫婦がいます。親にとってはもちろんのこと、子どもはかけがえのない大切な社会の宝です。『災害や事故で幼い命が奪われないよう、私たち大人がしっかり守らなくてはならない』と毎年、『こどもの日』の頃に必ず考えさせられます。



三尾の風景

町政報告 2023年春 第22号

とち
柄の実 通信
(ただっちゃん つうしん)

発行：河越 忠志

〒669-6801 新温泉町井土 978-1 TEL0796-92-2428(事) 92-2550(自宅)

E-mail: take2428co@coffee.ocn.ne.jp https://www.facebook.com/tadashi.kawagoe.1

新入生を待つ満開の桜



夢が丘中学校 R5.4.1撮影



温泉小学校 R5.4.1撮影



照来小学校 R5.4.1撮影

町民にやさしいまちに。こどもは、わが町の未来。

令和5年度がスタートしました！

令和4年度は、皆様から、たくさんのご意見や励ましのお声を頂きありがとうございました。令和5年度も、『町民にやさしいまち』を目指して、一生懸命頑張ります。引き続き皆様のお力添えを賜りますよう、お願い申し上げます。

4月1日こども家庭庁発足

『こどもの視点』でこどもの権利を保障し、誰ひとり取り残さず、健やかな成長を社会全体で後押ししていくために、新たに創設されました。こどものしあわせを皆で支えられるまちにしていきたいと思います。

浜坂認定こども園の早期整備実現に向けて

3月24日(金)、浜坂認定こども園の卒園式に出席させていただきました。

澄んだ目をしたこどもたちや、やさしく寄り添う保護者の方々の姿に、20数年前のわが子が重なりました。園児たちは、保護者やこども園の先生方、地域の大人たちに守られて成長します。日中、親元を離れてこども園で過ごす園児たちが、災害時の悪天候の中、避難を余儀なくされたり、不安や恐怖を感じなくてよいことを願います。保護者の皆様が、常に災害の不安なく、0歳児も預けることができるこども園の早期整備実現を目指していきたいと思います。

議員定数は削減の方向で協議が進捗中(特別委員会)

リフレッシュパークゆむら 年間パス制度廃止など

反対少数により、リフレッシュパークゆむらの年間パス廃止が決定しました。年間パスを利用して健康活動が続けられた町民の皆様方には、残念な報告となり心苦しい限りです。

ユートピア浜坂の2階で活動を続けて来られたグループの方から、「規定改正によって利用できなくなってしまった・・・」との声もお聞きしています。『温泉天国』新温泉町で、町民が、積雪や天候に左右されず続けられる健康活動の場はとても大事です。

4月14日(金)開催した飯野での座談会にご参加いただいた方から、「このまちはどこに行くのか、不安だ」との声も聞かれました。少子高齢化と人口減少が進む新温泉町。町民のしあわせを実現するために取り組んでいかなくてはならない課題はたくさんあります。

河越ただし「一般質問」について

浜坂駅周辺活性化と駅前広場の整備

浜坂駅前商店街の方から、「町は、『地域おこし協力隊の募集を行って、空き店舗を活用してもらう』と言っているが、私たち地元住民の要望を聞き入れようとはしない」との切実な声をお聞きしました。令和3年度に計上された『浜坂駅前活性化検討業務委託料700万円』は、令和4年度3月議会で、未執行のまま全額が減額補正され、令和4年度においては、役場内でプロジェクトチームをつくり5回の検討会を開催した」との報告を受けました。

地域起こし協力隊頼みで、協力隊への応募がなければ前に進まない取り組みでは、行政責任は果たせず、地元住民は置いてけぼりの現状があります。

浜坂駅前広場の整備についても、地域の皆様方との協議はなされず、役場内だけでの検討で進められてきたとの説明に、今後、どのようなやり方で合意形成が図られていくのか心配しています。



障がい者グループホームの町内設置

人権尊重の視点から、障がい者グループホームの町内設置を行政の責任として推進していくことについて質問しました。

「大きな課題であることは認識している。行政が前面に出て土地を探し、事業者の都合もあるので、事業者の協力を得ながら進めてきた。一方で、グループホームの建設予定地における周辺住民の理解が得られないといった側面があって、現在のところ進んでいないが、空き家活用を含めて再検討をしている。」

令和5年度に向けての所信内容では、「共生社会の実現に向けた意識の醸成を図るため、障がい理解を深める研修会等を実施します」との表明がありました。SDG'sが目指す『誰一人とりこぼしのない新温泉町』の実現に向けて、『誰が責任者となり、どういったスピード感で、いつまでに設置できるようにするのか』、設置に向けての着実な推進を求めました。障がい者の親たちの高齢化が進んでいます。『待ったなし』の状況です。

『官有地払い下げに伴う登記手続き』における公図の誤り修正

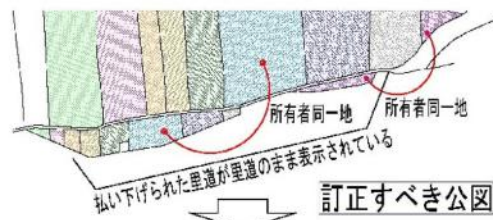
湯地内の春来川河川敷の一部の土地が昭和40年当時、温泉町の関与により、湯財産区への払い下げを経て、昭和42年に9名の個人に払い下げられました。その際の登記手続きの誤りにより、河川敷の一部として払い下げられた里道がそのまま公図に残り、各個人に払い下げられている土地の位置がずれた形で公図に記載されているといった相違が生じています。

旧温泉町の関わりは、手続きが行われた関係書類から確認できています。そのため、新温泉町にその責任の所在があると考えられます。公図の誤りは、地権者の土地利用に支障がでるため、法務局に備え付けられた公図の訂正は私（河越）が法務局及び土木事務所への説明、協議をさせていただきました。事前に、当事者である新温泉町が関わって協議を行えば簡単に公図の訂正が行えることを文書で提示させていただいておりました。そのうえで、行政としての姿勢を問わせていただきました。

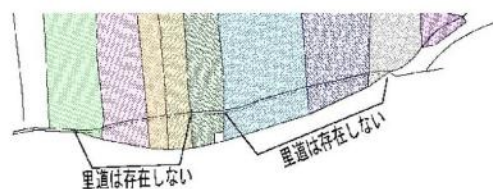
「個人の特定の土地に関する案件であり、この場での答弁は控える。」と、関係課題を含むすべての課題解決に後ろ向きで、行政責任を果たすことを拒む姿勢に残念な思いが募りました。

「個人の特定の土地に関する案件であり、この場での答弁は控える。」と、関係課題を含むすべての課題解決に後ろ向きで、行政責任を果たすことを拒む姿勢に残念な思いが募りました。

誤



正



浜坂地域の認定こども園整備に関する行政責任

味原川整備にかかわる町長の考え

「味原川は小井津町を流れていた。その後、約50億円をかけて新たに岸田川につながる放流経路が整備された。その整備で安全性は確保されたと考えている。」

味原川整備にかかわる町長の考え

平成27年に改修された味原川は、10年に1度の最大降雨量に耐えうることを想定して整備されました。一方、令和4年に兵庫県が発表した『1000年に1度』及び『50年に1度』のハザードマップの作成において、味原川は30年に1度の最大降雨量を基準としています。

これは、味原川水系の地形状況が、水系全域の降雨量を岸田川に放流可能ように整備することが困難だったことを意味しています。だからこそ、50億円という多額の整備費を投じて10年に1度の降雨量のみへの対応といった整備に止まらざるを得なかった、このような理由から私は、こどもの命をあずかる浜坂認定こども園周辺が安全になったと考えることは危険だと考えます。

兵庫県は、平成27年に完成した改修工事により、味原川流域の危険性が無くなったとの宣言は出してはいません。地球温暖化によるゲリラ豪雨や線状降水帯による長雨が度々発生する今、安全宣言を出すことは不可能です。二期にわたる両整備検討委員会においても、洪水の危険性は指摘されています。これまで町が示してきた施設整備案では町民の命や暮らしは守れません。



一般質問で分かったこと

① 西村町長は、公約のとおり現在地での浜坂認定こども園の整備を進めるにあたり、冠水による園の孤立を避けるための方策を講じることは、過去の整備方針を否定することになるので行政として取り組むことはできないとの考えであること。

② 味原川が改修された後の平成29年9月の台風18号の際、町は避難情報を発表していませんでした。浜坂認定こども園周辺を含む町道が冠水したことも把握せず、通行止めの措置もなされていませんでした。（行政が判断を誤ることもあります。）

保育施設の整備を行う際には、避難のみの防災対策では不十分です。いざという時、大切なこどもと職員の皆様の暮らしと命を守るという行政の責任を果たすことはできません。大切なこどもを託す保護者をはじめ皆様の立地への不安は、「これまでは大丈夫だったから」「これからはきっと大丈夫」といったことでは消えません。



請願不採択の理由

私はこれまで、浜坂認定こども園の現在地周辺での整備を推進してきました。しかし、3月議会に提出された請願の採択に際して反対をさせていただきました。その理由は、

① 現在地は浸水時の危険が想定されるから。

② 新築に際しては、将来見込まれる統合園になることへの協議が必要であること。

③ ただ新築するだけでは、防災対策が不十分であり、安全対策を加える必要があること。

これまで、どの整備検討委員会でも、浜坂認定こども園が新たに整備された後、いずれ統合園になるとの認識が示されています。貴重な町民の税金を投じての整備です。統合園についての協議が不可欠です。

令和4年3月に町が示した浜坂認定こども園の新築整備案では、敷地をかさ上げして建築するとされています。洪水時の避難については、周辺道路の浸水については考慮されておらず、園児の安全な避難やその後の保育の再開、継続に支障が出ることが想定されること。

以上3つの理由で苦渋の決断をさせていただきました。

幼いこどもたちが日々過ごす場所です。行政は、万全の安全対策を講じてしかるべきではないでしょうか。皆様の率直なご意見が、こどもたちの命を守る安全策につながります。皆様お一人お一人からの率直なご意見をお待ちしております。